四曲

二曲

2　草花図屏風　伝狩野永徳　四曲一隻・二曲一隻

紙本金地着色　桃山～江戸初期（十六～十七世紀）
（四曲）本紙一六八・〇×三七六・〇
（二曲）本紙一七六・〇×一八八・五

本屏風も、「源氏物語図屏風」（展示No.1）と同様、八条宮家邸宅の襖絵であったものが、屏風に仕立て直されたものである。現状では、四曲屏風は雪を載せた桧の枝、飛来する雁、枯れた芦などを描く「冬景図」をもう片隻として伴った一双の形で、また二曲屏風は、大きさのやや異なる一連の絵による片隻を伴った一双屏風として伝わる。いわゆる花鳥図として、邸宅の一室を飾っていたのであろう。

四曲の画面には、芍薬と菊、薄が全体に描かれる中、向かって左側には射干、金盞花、菫、撫子、野萱草などの春から夏にかけての草花が配され、薄と菊も画面右に移るにつれ、背丈を大きく描く。さらにその右に二曲を配置すると、薄の穂が出、竜胆や藤袴を従えた菊が、大きく、今を盛りと咲いている。またもう一方の二曲屏風には、雪を頂く遠山、冬枯れの酸漿と菊、水仙が描かれていることから、この一連の草花図は、菊を中心としながら、四季の草花を順次廻らした襖絵であったことが容易に想像される。可憐な草花がこのように堂々と描かれている点には、永徳、あるいはその一門の画師たちが、それまでにも常に描かれ続けてきた花鳥という画題を、大画面に上手く取り入れて独自の画風としたものである。

〈参考〉二曲一双のうちの左隻

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

江戸の美意識 ― 絵画意匠の伝統と展開
三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 28

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社 東京美術
翻訳　横溝廣子
発行　宮内庁
平成十四年三月二十六日発行

©2002, Museum of the Imperial Collections